

## 金大生のための徳田秋聲入門 ブックガイド



徳田秋聲生誕 150 年記念企画展に際して、徳田秋聲記念館の薮田由梨学芸員から、「若い読者が秋聲の世界に入っていくきっかけになるような作品、秋聲に関する評伝・評論、入門書...」といった観点から 10 点をご推薦いただきました。すべて、金沢大学附属図書館で所蔵していますので、この機会に是非お読みください。

### 1. 『徳田秋聲全集』全 42 巻別巻 1

八木書店, 1997-2006

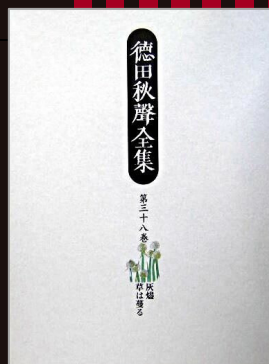
秋聲を研究する人のためにご紹介する全集です。

他作家でもそうですが、「全集」と名のついた本が複数あると、

どれを参照すべきかわかるといいます。

研究ベースで秋聲を知りたい方には、現在これが最新で基本です。

【中央図開架 918.68 : T646】



(標題紙 表紙は茶色無地)

### 2. 紅野謙介・大木志門編『徳田秋聲

(21 世紀日本文学ガイドブック 6)』ひつじ書房, 2018

秋聲を学ぶ人のための最新研究がつまっています。

今をときめく一線の秋聲研究者たちの論考がまとまっているので、

作家・作品・これまでの研究史を知るうえで非常に手っ取り早く、

必読・必携のありがたい一冊です。

【中央図開架 910.268 : T646】



### 3. 中川成美『戦争をよむ 70 冊の小説案内』(岩波新書)

岩波書店, 2018

本書に紹介される戦争を題材にした作品のうち、

秋聲のみ「戦時風景」「勲章」の二作が採用されました。

金沢大学の入試に出題されたこともあり、何故秋聲だったのか、

秋聲がどんな作家だったのかがよく分かります。

【中央図文庫・新書コーナー S913.6 : N163】



### 4. 古井由吉『古井由吉自撰作品』第 5 巻

河出書房新社, 2012

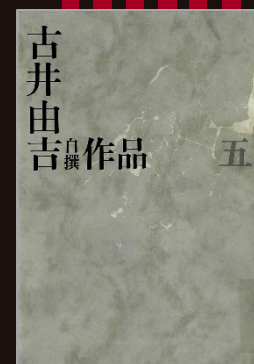
金沢での体験を描く秋聲の短編「町の踊り場」の舞台を巡る

「踊り場参り」を収録。

筆者は金沢大学で教鞭をとったこともある現代作家のうちの重鎮で、

秋聲ファンを公言してくださる希有の存在でしたが、昨年ご逝去。

【中央図開架 913.68 : F992:5】



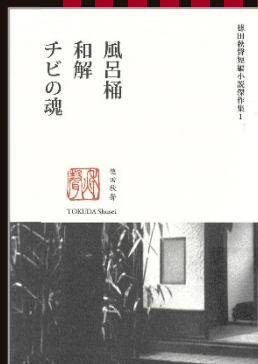
## 5. 短編小説傑作集 I『風呂桶・和解・チビの魂』

(徳田秋聲記念館文庫) 徳田秋聲記念館, 2019

妙な老婆と乗り合わせた「夜航船」、娼妓の哀れを語る「或売笑婦の話」、自宅の壊れた「風呂桶」を交換する話、鏡花との「和解」に至る短編等 9 作を収録。

さまざまな人間模様を切り取る観察眼と描写力が圧巻です。

【中央図開架 913.6 : T646 : 1】

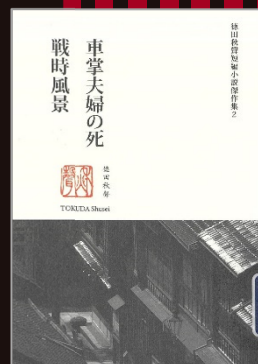


## 6. 短編小説傑作集 II『車掌夫婦の死・戦時風景』

(徳田秋聲記念館文庫) 徳田秋聲記念館, 2019

大正期、金沢に開通した市の市電を描く「車掌夫婦の死」、戦争に対する庶民の呟きを拾い上げた「戦時風景」、〇〇を爆弾と見間違えて大騒ぎする「ファイヤ・ガン」など、対社会的な秋聲の鋭い眼差しの光る短編集。

【中央図開架 913.6 : T646 : 2】

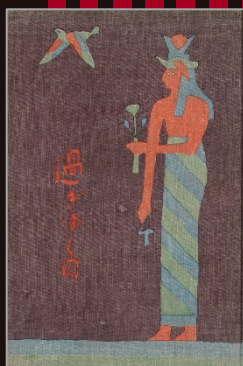


## 7. 『過ぎゆく日』改造社, 1926

秋聲の妻はまの急死を描く「折靴」から葬儀を描く「過ぎゆく日」、のちに恋愛事件を起こすことになる年若い弟子の登場を描く「質物」他を収めた連作短編集。

近親者の死をこうまで非情に綴った小説を他に知りません。

【中央図書館 913.6 : T646】



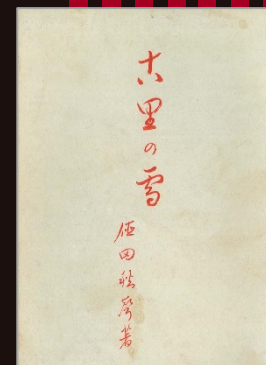
## 8. 『古里の雪』白山書房, 1947

秋聲没後に長男一穂が金沢ものを集めて刊行。

「古里の雪」は生涯最後の帰省を描き未完・未発表。

ひがし茶屋街を内側から描く「挿話」、関東大震災時の金沢の混乱を描く「不安のなかに」ほか歴史的証言としても貴重。

【中央図四高 7 : 31 : 158】



## 9. 『一つの好み』鎌倉文庫, 1946

秋聲没後、秋聲作品を敬愛した後輩にあたるノーベル賞作家川端康成が戦後間もなく刊行。

冒頭を飾る川端絶賛の短編「勲章」に見る現実の容赦のなさは一読の価値あり。秋聲長男一穂による後書きも胸に迫ります。

【中央図四高 7 : 31 : 56】

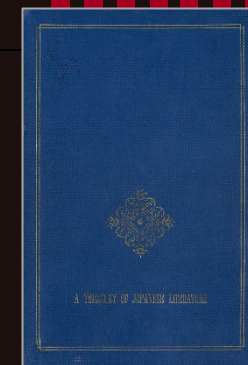


## 10. 『徳田秋聲（一）・（二）』

(日本の文学 第9編・第10編) 中央公論社, 1966

全集にして全 42 巻を誇り、しかしまだ収録しきれず編集者が諦めたという多作な秋聲の主な代表作がだいたいこれで網羅できます。この 2 冊を読みおおせれば我が物顔で秋聲を語ってよし。川端康成による解説も必読。

【中央図開架 918.6 : N719 : 9, 10】



※金沢大学附属図書館報「こだま」第 208 号（2022 年 1 月発行）でも徳田秋聲を特集し、藪田さんに、秋聲の人となりや作品の楽しみ方などについてご紹介いただきました。併せてお読みください。